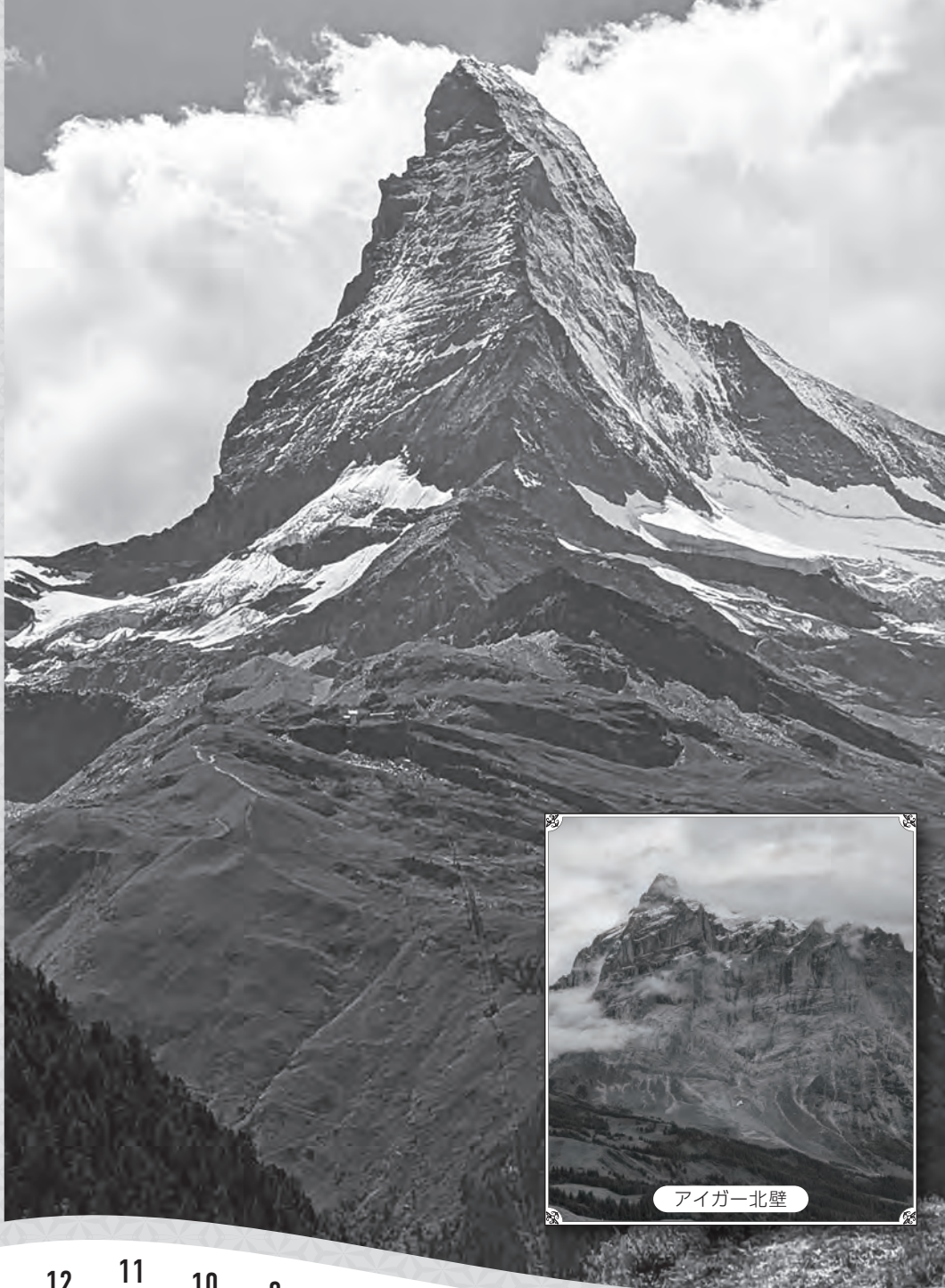


# 寺子屋ガイド

※題字／森川芳聲

## もくじ

- 2 巻頭言“スイスに学ぶ”……………山口 秀範
- 3 鄙爺日記その③……………猪部 敬彦
- 4 偉人レポート……………外園 明博
- 6 『日本の偉人100人』を推す 黒岩 真一
- 7 この一冊……………廣木 寧
- 8 母のこと伯母のこと①……………高見澤 玉江
- 9 死支度と友情④……………廣木 寧
- 10 TERAKOYAふおとれぽーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 山とものがたり(2) 編輯余録



アイガー北壁

マッターホルンとアイガー北壁

スイス

※詳しく解説は12頁に掲載しております

# ”スイスに学ぶ”

代表世話役

山口 秀範

スイスのボーディングスクール視察

七月の終わりにスイス南部のT A S I S (スイスで第一号のアメリカンスクール)を訪ねました。未就学児から高校生まで七百人以上を、世界六十ヶ国から集める寄宿制の学校です。この時期にはサマースクール開催中で、子供たちの元気な歓声が溢れていました。

ボーディングスクールは元来英国の伝統でしたが、近年はスイスに集中し世界各地から富裕層子女の入学が相次いでいます。水と緑に囲まれた美しい自然と、多言語多文化の共存している、然も安全性の高い環境が人気の要因のようです。

夏季スクールの校長・マークピエール氏に話を聞きました。七十年の歴史を刻む当校も開校時は六人の生徒で出発したとのこと。普段は首都ワシントン在住の米国人で、「アメリカンスクールとして国際性豊かなプログラムを提供するが、生徒それぞれが背負う固有文化を尊重しながら多様性の中で相互理解を目指している」と語ります。

寮生活は部屋ごとに整理と清掃を競わせ、基本ルールは厳守を求め、違反者には容赦なく退学を命じるとのこと。規律と自由闊達の兼ね合いなどは長い実績の中から培われたものでしょう。月謝百万円以上の学校経営に教わるころが多々ありました。

外に出て気づくことども

久々の欧州旅行で、いろいろな気づきがありました。まず各地の空港でのI T・A I化の進展に認識を改めました。以前のような出入国審査の書類記載は一切なし

で、主役は顔認証のA Iが担っています。国際指名手配などの情報もすべて組み込まれているのだろうと感心しながら毎度通過しました。

訪れたどの街も完全にキャッシュレス化され、買物・タクシー・飲食店すべてで現金不要が徹底しています。テーブルでカード決済を待つウェイターは「チップを幾らいただけですか」という表情で上乘せを期待します。そして物価は概して高い、と言うより日本の値段が安過ぎると思われてなりません。

スイスの観光都市ツェルマツトでホテルのチェックイン時に、ものを頼張りながら勤務するパートタイマーらしき女性から部屋のキーを受け取りました。さて開けようとカギを回すと中から悲鳴が上がりました。既に別の客が入り、女性の着替え中だったのです。こちらも驚きましたが彼女は恐怖でパニック状態です。

フロントに戻りクレームすると、一応は平謝りでしたが事態をそれほど深刻に捉える風はなし。もし先客が攻撃的な男性なら、こちらが襲われる危険性もあったわけで、まともな料金を取れるサービスからほど遠いと断じざるを得ません。

これは例外的だとしても、日本人の接客、訪問客への心遣いは多くの来日旅行者の称賛するところです。その有形無形のサービスを我々自身が正当に評価しているでしょうか。日本人の収入を増やすという観点から、「おもてなし」を有料の価値化する工夫を是非とも進めて欲しいと切実に感じました。

スイスの国柄

ところで、スイスはナポレオン戦争の後から「永世中立国」の地位を認められ、二百年以上に亘って国際社会に名誉ある存在感を保っています。どの国とも軍事同盟を結ばず、従って国民皆兵(男子は全員徴兵、

女子は志願だが徴兵への動きもある)によって強力な軍隊を保持し自国を防衛するという、「武装中立」を国是としています。

今回の旅行中にも電車内や駅で軍服姿の若者を度々見かけ、その屈託ない笑顔が印象的でした。

早くから核シェルターの建設にも取り組み、一九八三年にジュネーブの友人宅を訪れた際に、そのマンションの地下が住民のためのシェルターになっていると案内されて驚いたことが思い出されます。現在では全国民一〇〇%以上の設置率を誇っている国です。

一方我が国では戦後に「非武装中立」を国会で議論した時期があったことを思い出します。憲法九条を文字通り読めば「戦力不保持」となり、前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持」する非武装中立こそ日本の生きる道だと主張する野党議員が存在したのです。しかし昨今の国際情勢や近隣諸国の振舞いから、流石にかつての空論が息を吹き返すことはないでしょう。

だからと言って、自国の軍事力に対するアレルギーが払拭されたとは言えないでしょう。その根本原因として、敗戦による「占領後遺症」が今もって日本人を蝕んでいることが挙げられます。今月号の「この一冊」で取り上げられている東京裁判の呪縛を日本人は今も克服できなままではありませんか。戦後長きに亘り憲法改正を阻んでいるのも、それと同根の我々自身の言われなき負い目に真因がありそうです。今こそスイスに学ぶことは多いと感じる日々でした。

(追伸)

第十七期「寺子屋の先生養成講座」は九月開講をご案内していましたが、参加希望者の要望等もあつて来春に延期を決めました。改めて日程をお知らせします。